



発行者  
文京学院大学  
女子中学校  
南部 和彦

生徒会長になって

三年松組 石井 南

私は昨年も生徒会長を務めました。その頃は、私の隣には常に会長がいて、役割を指示してもらったり、仕事のやり方などを教えてもらったりしていました。このように活動してきた私が、今度は後輩に指示する役割になります。きちんと正しく行動できるか、要領よく仕事をこなせるか、今でも心配です。しかし、生徒会長になったからには、自分のベストを尽くしたいと思っています。

私には目標があります。一つ目は生徒の意見を尊重する生徒会にすることです。私たちがひっぱって行くのではなく、生徒みんなの気持ちや考えを元に、いろいろなプロジェクトや活動を作っていききたいと思います。

そのために、みなさんに意見箱をたくさん利用して欲しいと思います、その数を増やそうと考えています。なかなか直接言えなくても、紙に自分の考えを書けば、私たち生徒会がきちんと対処します。

二つ目は明るいあいさつの声で、活気あふれる学校にすることです。私にとってあいさつはその一日を気持ち良く過ごすために重要なものです。実際登校したときに「元気よくあいさつをしたら、気持ち明るくなり、「今日も一日頑張ろう。」と思えます。このような気持ちをより多くの生徒に共有してほしいと思います、目標の一つにしました。

中学校卒業の頃に、生徒会長になって良かったと思えるように、悔いのない一歩一歩を歩んでいきたいと思っています。



フランス革命の裏側

二年桃組 高 梨奈

先日の芸術鑑賞教室にて、私たちは宝塚劇団の公演「1789バスティーユの恋人たち」を観ました。

物語の舞台は、十八世紀のフランスでした。当時はまだ貴族と平民の身分差別が激しく、上流階級の人々が毎晩豪華なパーティーを行う中で、民衆はパンもろくに買えない状態でした。そんな自分たちの生活に耐えられなくなった民衆は、国王であるルイ十六世がネッケル大臣を解任したのを機に怒りを爆発させました。それがフランス革命の始まりでした。今回の演劇はこのフランス革命をミュージカル仕立てにしたものでした。

観劇する中で、私が特に面白いな、すごいなと思ったことが三つありました。一つは、民衆以外の立場の人々の様子が描かれていたということです。オランブという人物が主要人物となり、その視点で話を進められていくことで、今までとは違った考えを持つことができました。二つめは、マリー・アントワネットはとても悲惨な人生を送ったのだと思いました。そして三つめは、今回の話の重要な人物の一人であるネッケル役を本校の卒業生（先輩）が演じたということです。前日の朝間時間にビデオメッセージが放送されたこともあり、とても楽しみにしていました。民衆から愛され、最後まで民衆のことを思い続けたネッケル役を、本当に格好良く演じられていたことに感動しました。

私は今回の鑑賞で宝塚の面白さを感じるとともに、歴史の偉大さ、資料だけでは読み取れない歴史の感動するような奥深さを感じることができ、フランス革命の裏側を学ぶことができました。



体育祭実行委員の三役を経験して

二年桃組 内藤 美羽

私は以前に体育祭実行委員は経験したことがありませんでしたが、三役のような大きな仕事を任せられるのは初めてでした。最初の打ち合わせは二年生の三月でしたが、そこで、仕事の大変さを実感しました。

三役に立候補したきっかけは、前年度の先輩方が優勝旗を受け取る姿を見て、自分も同じ経験をしてみたいと思ったからです。実際の仕事は想像していたのとは大きく違って、戸惑うこともありましたが、先輩方にサポートしていただくなかで徐々に仕事の内容も理解でき、最後には自分から積極的に行動することもできるようになりました。

四月からは毎日のように集まって、遅い時間まで作業を続けました。そのなかで、最も大変だった仕事は、器具を作ることでした。大変な作業の中でも、先輩方は場を楽しく盛り上げてくださり、仕事をしている時間が短く感じられるほどでした。

体育祭の当日は、他の生徒よりも早く会場に向かい、準備をしました。スムーズにいかないこともたくさんあり、多くの人に迷惑をかけてしまいました。無事に準備を終えたときには、少しほっとしました。

閉会式では、私が最初に願った通りに優勝旗を受け取ることができ、とても感激しました。体育祭実行委員の三役として一生懸命活動してきてよかったと思いました。



初めての体育祭

一年桃組 外崎 友花

私たち一年生は初めての体育祭でした。会場はとても大きい代々木体育館で行いました。体育館にはカメ

ランさんもいて小学生の時との違いに驚きました。大スクリーンには汗を流して戦っている私たちの姿が映し出されていました。

私たち一年生は、まず台風の目に参加しました。私のクラスは力を発揮することが出来ず結果を出せませんでした。しかし、クラス全体がまとまるのが出来、練習とは違い、一度もひっかかることなくスムーズに出来ました。

私はロープファイターにも参加しました。ここでは思わぬ出来事がありました。それは一年生が二年生と三年生に勝つことです。一年生の人数が多かったのはもちろんの理由かもしれませんが、体格も全く違う先輩たちに勝つことは自信につながりました。どんな競技であれ、全力で戦って勝つということは、本当に心のそこから力がわいてきます。

この体育祭は、高校生と一緒にやるのが出来ました。そして一緒に競技することであらためて高校生の強さや、素晴らしさを感じました。私たち中学生も数年後には高校に進学します。その時には下級生の見本となるよう努力していきたいと思っています。そして特に高校三年生は、最後の体育祭で優勝できたのはよかったですと思います。

各クラス、学年ごとの応援団の人たちもたいへん気合が入っていました。応援幕は工夫された作品が多かった。私たちが作る時も全員で協力して素敵な作品を作ろうと思いました。応援の声も大きな体育館中に響きわたっていて、体育祭を盛り上げていました。

来年はクラスが変わってしまいますが、またみんなで頑張りたいと思います。私はバレー部なのでクラスの人に役立てるように全力で戦いたいと思います。

